脚長差の対策について

標準的な整形外科教科書に記載されている足延長術は、一部の小児切断クリニックでは短い下肢に対する切断術あるいは健側下肢骨端固定術のかわりに行われてきました。あらゆる足延長術は潜在的に、骨癒合遅延・坐骨神経麻痺・末梢血行障害・高血圧症・筋力低下・関節障害・創の感染・壊疽等の合併症の可能性をもっている。足延長の限界は５ｃｍまでであり、骨成熟期にそれ以上の延長が必要な患者には適応がない。

血流状態の変更、人工的骨折、金属その他の物質の埋込による成長刺激療法は成績が不安定なために推奨できない。

近軸性半肢症にたいして頻回足延長術を施行したにもかかわらず十分な長さが得られず、最終的に切断術をうけた症例を我々はかなり経験している。

文献引用「小児切断と義肢」
編著：医学博士　ヨシオセトグチ　作業療法士　ルース ローゼンフェルダー
訳者：加倉井周一
出版：パシフィックサプライ株式会社